



できることから
はじめよう!
環境にいいこと
ひとつずつ

城陽エコパートナー通信

Vol.73

発行日：令和4年(2022年)4月13日
会員数：305人(令和4年3月31日現在)

編集・発行：城陽環境パートナーシップ会議
(事務局) Tel(56)4061 Fax (66)6828

地球温暖化の動向について

文：奥田委員



◆氷床の減少・海面水位の上昇◆



◆健康への被害◆



◆生態系への影響◆



◆異常気象などの発生◆



2月15日発行の広報じょうようで『ゼロカーボンシティ宣言』が掲載されました。是非とも御覧下さい。世界各国をこの宣言に至らしめた主因がエコパートナー通信 VOL71.特別号「脱炭素活動に向けての世界の歩み」に由来するのです。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)では1992年の第1次以降、2015年の第5次(パリ協定)まで6~7年毎に専門家による評価報告書が出されて現状と将来の見通しを示しており、2021年の第6次報告書では「人間活動による温暖化が起きていることは疑う余地がない。」と初めて断定しました。以下は報告書の主な内容です。

●地球全体の気温が上昇するのは、大気中のCO₂など熱を吸収する温室効果ガスが経済活動に伴い増加することに加え森林破壊などによるCO₂吸収力の減少が原因です。世界全体の平均気温は1880年から2012年の間に0.85℃上がり、近年には1℃を超えています。パリ協定の目標1.5℃には2050年のカーボンニュートラル実現が必至です。

●CO₂やメタンガスなど温室効果ガスは、太陽からの日射エネルギーを通過させる一方、地表から放射される赤外線を吸収して熱が地球外へ出て行くのを防ぐ性質を持ちます。これらのガスが大気中にあることで平均気温が14℃に保たれていますが、ガスがないとマイナス19℃前後になります。温室効果ガスのありがたみも実感します。

●世界全体では、農業や漁業への悪影響、熱帯性の感染症や暑さによる健康被害、沿岸域の洪水や暴風雨の被害、経済的な損害も増えています。地域や作物などによってはプラスの影響もマイナスの影響もあります。悪影響に対応出来ずに暮らす人が世界で33~36億人と予想されます。

●日本の場合、台風や大雨による被害が増加していますが、今後はさらに大雨の日が増えて1日200mm以上という大雨の日が増え洪水のリスクが倍増、土砂災害の発生頻度も規模も増加します。

●気温の1.5℃上昇だけでも食糧不足のリスクが増え、生物の多様性にも絶滅の危機に瀕する動植物の種類の急増、35℃以上の猛暑日が19日増えて熱中症による死亡リスクが倍増します。また米の品質の低下、果物の種類の栽培困難、乳牛の生産力の低下、ブタや鶏の成長の悪化、漁業では、多くの業種の漁獲量の低下が予測されます。

●世界平均の海面水位は、1880年以降100年経過で20cm程度上昇、今世紀末には非常に低いシナリオでも50cm~1m上昇すると予測され南極大陸の氷床の崩壊が始まると1.7m程度の上昇も考えられます。他にもアマゾンの熱帯雨林の枯死、北大西洋の海洋深層循環の停止もあげられます。

城陽市は変化している？ ①気候変動への対応

文：中島委員

先日、京都気候変動適応センター主催の「京都でいま何が起きているのか？—京都における気候変動影響とその対応に向けて—」というシンポジウムをオンラインで受講、これまでの【緩和策】としての活動に加え【適応策】の取組も知ることができました。

近年、地球温暖化の影響で気温が上昇し、地球規模で海水温の上昇により氷河が溶け出したり、雨の降り方が今までとは違って大規模な災害が頻発したりと日常生活の中でも「気候変動」をヒシヒシと感じるようになってきました。もちろん京都でも過去100年間で平均気温が約2度上昇。過去50年間に夜間の気温が25度を下回らない熱帯夜が18日増加し日中の最高気温が35度以上となる猛暑日も5.5日増加。冬も今年は気温が低い日が続いていますが、1日の最低気温が0度を下回らない冬日が37.5日も増加しています。この気候変動を抑えるため、【緩和策】では温暖化防止対策として国では昨年2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルを宣言、これを受け城陽市も「ゼロカーボンシティ宣言」をしたところです。

【緩和策】を進めると同時にすでに気候変動により起こっている災害や影響を受けている自然、人、農業などを守る【適応策】にも力を入れる必要があります。

このために2018年12月に気候変動適応法が制定され、各自治体に地域気候変動適応センターが設置されてきており、京都府でも2021年7月に京都市との合同で京都気候変動適応センターが設置されました。このセンターが設置され、各分野への気候変動適応についてのヒアリングを経て、今回の現状把握から課題提起のシンポジウムでしたが、気候変動の影響を大きく受けるのは農業であり、特にお茶への影響を重視されており京都気象台のデータで気温が上昇しているのは確実だが、月別みると4月と8月は上がっておらず、お茶の霜害等への影響が大きいと実感できるお話もありました。

効果的な【適応策】を執っていくためには農業に携わっている人や自然環境保護などの活動をする人たちとの密な情報共有、行政政策に生かすための双方向の情報提供が重要であることを確認したシンポジウムでした。



城陽市は変化している？ ②自然観察会を開催しました

文：井手委員

2月5日(土)午前9時から午前11時30分まで、古川流域で自然観察会を開催しました。真冬を思わせる寒さの中(城陽は午前9時2.3℃予報)での観察会は初めてでしたが、一般18名、講師3名、PS会議スタッフ3名、事務局2名の、合計26名と、たくさんの方にご参加いただきました。講師は、脇坂英弥さん(環境生物研究会)と 田中義則さん(環境生物研究会)、そして福井惇一君です。講師紹介の後、下記の「野鳥のクイズ」をおこないました。

- ①世界では何種類の野鳥が住んでいるでしょうか？⇒約11,000種の野鳥がいる(日本は650種類)。
- ②高さ何mまで飛べるでしょうか？⇒8,000m
- ③深さ何mまで潜れるでしょうか？⇒500m
- ④ノンストップで何kmの距離を飛べるでしょうか？⇒1,200km

2016年～2021年(6年間)の古川流域での観察会で、71種類の野鳥が観察されており、平均すると毎回30種類の野鳥を観察できていたことになります。この寒さで、何種類の野鳥が観察できるか心配のスタートでした。結果は、24種類の野鳥が観察できました。お目当てのケリ、チヨウゲンボウは観察できましたが、6年間毎回観察されている野鳥8種類の中で「ヒバリ」が確認できず、今回の観察会では、7種類に減りました。寒さが影響かな…？ 京都新聞によると、この6年間でツバメが15,000羽から9,000羽に40%の減少、スズメが30,000羽から21,000羽に32%減少(環境省生物多様センターの調査)と報道されていました。古川の改修工事が進み、あまりにもきれいになり、魚が見えない、水鳥が少ない、いつも顔を出すヌートリアは何処に行っただろう…？

いつもの通り、荒洲北橋で集合写真を撮り、帰路は参加者全員でごみ拾いを行いました。解散場所である、北部コミセンに戻り、竹内委員が、本日観察された鳥類の発表、観察会全体のまとめをおこない、講師の脇坂さんより本日の観察会の講評を頂き、参加者全員に「野鳥のポストカード」を配布して解散となりました。

激変した古川流域の観察会は今後も続けていきたいと思えます。



暮らしの中で出来ること。

それはふと、何気なく環境のことを考えることです。

暮らしはさまざま、でも健やかで、無理のない暮らし方が大切です。普段、暮らしの中で環境を意識することはあまりないと思いますが、日々の暮らしの中で、買う、使う、捨てるなどの行動は必ずあります。その時にふと環境のことを思い浮かべてください。家の中では灯り、暖房、冷房、テレビ、冷蔵庫、給湯器、お風呂など、外では自動車、バイクなどこれらが二酸化炭素(CO₂)を出します。ふと使い方を考えることが長い時間の中でゼロカーボン、CO₂削減、地球温暖化防止につながります。

塵も積もれば山となります。絶対にダメなのはポイ捨てです。エントロピー増大という法則があります。覆水盆に返らずの喩(たとえ)です。一旦拡散された物質は元の状態には戻りません。ゴミもそうです。道端や野や山に捨てられたゴミは拾われることなく、雨水と共に排水路や川を伝ってやがて海にたどり着きます。このゴミは景観を汚すのみならず回収に膨大な人力、エネルギーを要します。これが更なるCO₂の排出になります。砕けた廃プラスチック(マイクロプラスチック)による海洋汚染は海の生き物だけではなく人間を含む地球上の生物の生存に関わる、地球温暖化以上に大きな環境問題とも言われています。

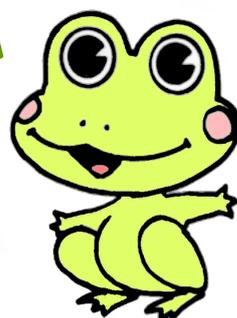
「情けは人のためならず」です。環境問題は私たち一人ひとりの問題で、他人事ではありません。ふと考えてみましょう。



ゼロカーボンシティへ向けて 今年度はこんなことをやります！！

城陽環境パートナーシップ会議では、ゼロカーボンシティに向けて新たにこんなことをやっちゃいます！

- 市内の小中学生を対象に、カーボンニュートラルを目指すことで、創造した「未来の世界」の絵画を募集する、カーボンニュートラル絵画展の開催！
 - 市民のみなさんのゼロカーボンへの取組みを啓発し、実践に導く「エコチャレQ」を大学生さんと作製！
 - グリーンカーテンフォトコンテストの実施！
 - ふるさとの自然を知り、学ぶ「自然観察会」
 - みなさんと環境を考える城陽市環境フォーラムの開催
 - カーボンニュートラルを目的とした「どんぐりプロジェクト」などの開催を予定しております！
- みなさんのご参加をおまちしております。



イベント INFORMATION

自然観察会を開催します！

鳥類標識調査最前線！～野鳥観察と標識調査も見学しませんか？～

5月のバードウィークに、木津川河川敷に生息する希少な鳥類やさまざまな動植物の自然観察会と、当日は鳥の標識調査もおこないます。身近な河川の現状や生き物の観察を通して地域環境の大切さを再確認しませんか。

- ◇開催日：令和4年5月14日(土)
- ◇集合場所：木津川河川敷グラウンド(テニスコート横)
- ◇時間：9時集合 12時解散
- ◇観察場所：木津川河川敷グラウンド周辺
- ※雨天中止(判断しかねるときは、当日8時30分～8時45分に問合せ)
- ◇対象：市内在住、在学、在勤の人(小学生以下は保護者同伴)
- ◇参加費：無料
- ◇講師：脇坂英弥氏(環境生物研究会)・岡井勇樹氏(環境生物研究会)
- ◇持ち物：水筒・タオル・帽子 ※当日はマスクの着用をお願いします。
- ◇申・問：城陽環境パートナーシップ会議事務局へ直接か電話(56-4061)
- ※4月18日(月)より受付開始



目指せ、ゼロカーボン！ みんなでつくろう、グリーンカーテン！

グリーンカーテンは、窓からの日差しを遮り、室内温度の上昇を抑制するとともに植物の蒸散作用によって周囲を冷やすことが期待できます。エアコンの使用頻度が減り、省エネや温暖化防止にもつながります。グリーンカーテンで人も地球も涼しく！人にも地球にも優しい、この「グリーンカーテン」をご家庭で、町内で、学校で、職場で育てましょう。省エネ効果でCO₂を削減しましょう！



今年度も開催します！ 第6回グリーンカーテンフォトコンテスト

2022年、城陽市内で応募者が栽培に取り組まれたグリーンカーテンの写真を募集します！プロ・アマを問いません。応募サイズはA4サイズ(210mm×297mm)で、作品の応募は1人1点のみ。応募締め切りは9月30日(金)、郵送であれば当日消印有効です。
★その他詳細は事務局にお問い合わせください。



日本観光ゴルフ株式会社
城陽カントリー倶楽部
〒610-0121 京都府城陽市寺田奥山1-46

株式会社 城南工建
〒610-0113 京都府城陽市中芦原27番地の1
TEL 0774-53-3939 FAX 0774-55-1172

株式会社 ミズホ
砥石で、未来を磨いてゆく
〒610-0121 京都府城陽市寺田袋尻82番地

東城陽ゴルフ倶楽部
〒610-0113 京都府城陽市寺田奥山1-48
TEL 0774-52-1161

次の団体・個人から賛助会費をいただきました。誠にありがとうございました。

近畿砂利協同組合、京都城陽ロータリークラブ、サントリープロダクツ(株)宇治川工場、(株)城南工建、城陽市、城陽商工会議所、城陽金融会、星和電機(株)、(株)玉井開発、日本観光ゴルフ(株)城陽カントリー倶楽部、東城陽ゴルフ倶楽部、(株)平和堂アル・プラザ城陽、(株)ミズホ、森澤博光 ※令和4年3月末現在(五十音順・敬称略)